平成 28 年度スポーツ庁委託事業「子供の体力向上課題対策プロジェクト」

中学校、高等学校における教員を対象とした女性特有の健康問題に関する情報周知

成果報告書

平成 29 年 3 月

特定非営利活動法人日本子宮内膜症啓発会議

１、はじめに

月経に起因する月経困難症、過多月経による貧血、無月経、月経前症候群（PMS）などの女性特有の疾患は古来より多くの女性を苦しめ、学生時代のみならず将来の健やかな人生にまで影響を与えています。さらに、近年のライフスタイルの変化に伴い、その患者数は子宮内膜症を例にするとここ 40 年の間に約 30 倍に増加していると東大分院のデータで報告されています。このような女性特有の疾患は大人だけの問題ではなく、思春期の女子生徒においても心身ともに健康であるために正しい知識の普及と必要時の適切な対応が必須であると考えられます。

そこで、特定非営利活動法人日本子宮内膜症啓発会議は平成 28 年度のスポーツ庁委託事業として「子供の体力向上課題対策プロジェクト」を実施いたしました。

本事業では、女子生徒が学校生活において女子特有の健康問題により勉強・運動などへの影響で悩みを一人で抱え込んでしまう状況や、スポーツ等での活躍を阻害してしまう事の無いよう、女性医療団体、学校関連団体および専門家と連携し、実態調査として千葉県内の中学校・高等学校各 1 校の女子生徒（計 608 名）を対象とした女子特有の健康問題に関する調査・分析を実施しました。

またその調査より得られた結果を基に、女子生徒の抱える女子特有の健康問題に関する実態と、女性特有の疾患に係る情報をまとめた教職員を対象とする小冊子ならび自主研修できるスライドコンテンツと、女子生徒を対象とした啓発ポスターを制作いたしました。学校現場において女子生徒が女子特有の健康問題による悩みを一人で抱え込まない環境づくりをお願いするためにも、教職員対象小冊子と生徒対象啓発ポスターは、全国の中学校・高等学校へ配布しております。

女子生徒の相談先となられる教職員・養護教諭、また教育委員会等の学校関係者皆様におかれましては、是非とも本事業の趣旨と目的をご理解いただき、女子生徒が健やかに学校生活を送り、また将来においても健康的に生活ができる環境づくりができるよう本事業で制作した資材をご活用いただける事を切に願っております。

平成 29 年 3 月 30 日

特定非営利活動法人日本子宮内膜症啓発会議

目次

１、はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

２、事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4～5

I.　事業の趣旨・目的

II.　事業の内容

III.　事業の実施体制

３、現状把握と検討会議について・・・・・・・・・・・・6

４、調査事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・7～18

I.　調査目的

II.　調査方法

III.　調査内容

IV.　調査結果

５、制作資材について・・・・・・・・・・・・・・・・・19

I.　資材内容

６、まとめ・今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・20

２、事業概要

I.　事業の趣旨・目的

月経に起因する月経困難症、過多月経による貧血、無月経、PMS などの女性特有の疾患は古来より多くの女性を苦しめ、学生時代のみならず将来の健やかな人生にまで影響を与えている。さらに、近年のライフスタイルの変化に伴い、その患者数は子宮内膜症を例にすると数十倍に増加していると東大分院のデータで報告されている。しかしながら、現行の教科書要項に鑑みると月経についての教育は小学校 4 年生と中学校 1 年生で記載されているが、女性特有の疾患についてはほぼ教育されていないというのが現状である。それゆえ、女子生徒・女子運動選手そして指導的立場である教員においても女性特有疾患についての認識が必ずしも十分な状況とは言えない。女子生徒が学校生活において女性特有の健康問題により勉強・運動などへの影響で悩みを一人で抱えこんでしまう状況や、スポーツ等での活躍を阻害してしまう事の無いよう、本会とその協力団体、学校関連団体および専門家が協力して女子生徒における現状と課題、さらに指導における問題点を明確にし、特に中学・高校生に見られる女性特有疾患とその予後、現在の症状と特有のサイン、そしてその対応についてなど学校現場で必要とされる情報を簡潔にまとめて学校教員へ周知することで、関係する方々による早期の対応を促し、女子生徒並びに運動選手が体力・運動能力の向上そして学生時代のみならず将来においても健康的に生活できる環境創生の一助となることを目的とする。

II.　事業の内容

（1） 現状把握と対策のコンセンサス創生

本事業参画団体より委員が選出され、中学校・高等学校女子生徒の女性特有疾患の現状把握、課題の明確化、教員・指導者への周知方法、対応促進のための啓発資材内容等を検討するコンセンサス検討会議を全 4 回開催

（2） 学校現場における現状調査

全国養護教諭連絡協議会協力のもと中学校・高等学校の女子生徒を対象としたアンケート調査を実施。月経関連症状の有無と運動・日常生活への影響、相談・治療の有無を調査

（3） 中学高等学校教員対象および女子生徒対象の啓発資材作成・配布

学校現場における現状調査の結果を基にコンセンサス検討会議で協議された月経関連疾患と学校生活についてまとめた教員対象の啓発冊子および自主学習用スライドの作成ならび女子生徒対象の啓発ポスターを作成。全国の中学校・高等学校等約 19,263 校へ 3 月末に一斉発送

III. 事業の実施体制

教育・学校体育に関係する団体および医療・女性関連団体や有識者等で構成される事業内容・調査検討のための会議を設置。参画団体より代表者として各１名ずつ選出。全４回の会議を開催した。

（１） 参画団体

公益財団法人日本学校保健会、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本中学校体育連盟、公益財団法人日本高等学校体育連盟、全国養護教諭連絡協議会、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本産科婦人科学会、公益社団法人日本産婦人科医会、一般社団法人日本思春期学会、独立行政法人日本スポーツ振興センター・国立スポーツ科学センター

（２） 委員リスト

村松　章伊	日本学校保健会　常務理事
川原　貴	日本体育協会　医科学委員長
菊山　直幸	日本中学校体育連盟　専務理事
須黒　祥子	日本高等学校体育連盟
米元　まり子	全国養護教諭連絡協議会　事務局次長
温泉川　梅代	日本医師会　常任理事
大須賀　穣	日本産科婦人科学会　特任理事
安達　知子	日本産婦人科医会　常務理事
北村　邦夫	日本思春期学会　監事
能瀬　さやか	国立スポーツ科学センター　メディカルセンター
百枝　幹雄	日本子宮内膜症啓発会議　実行委員長
小林　浩	日本子宮内膜症啓発会議　副実行委員長
甲賀　かをり	日本子宮内膜症啓発会議　副実行委員長

（３） 事務局

日本子宮内膜症啓発会議事務局

3、現状把握と検討会議について

1） 第1回コンセンサス検討会議

期日：平成28年7月16日（土）9:30～12:30

会場：あすか会議室　東京日本橋　あすか2

委員：8名

次第：
1. 日本子宮内膜症啓発会議の紹介、参画団体・代表者の紹介
2. 事業趣旨説明
3. 思春期における女性特有疾患の説明（講義）
4. 中学高校女子生徒の女性特有疾患の現状調査について
5. 資材編集担当者・スケジュールの提案

2） 第2回コンセンサス検討会議

期日：平成28年9月25日（日）9:30～12:30

会場：あすか会議室　東京日本橋　あすか3

委員：8名

次第：
1. 中学高校女子生徒の調査結果報告
2. アンケートから見える中学高校女子生徒の課題
3. 啓発資材の骨子

3） 第3回コンセンサス検討会議

期日：平成28年10月12日（水）14:00～17:00

会場：あすか会議室　東京日本橋　あすか3

委員：11名

次第：
1. アンケート調査結果追加解析の報告
2. 制作資材（冊子・ポスター）の提案
3. 今後の課題・次年度プランの提案、検討

4） 資材編集会議

期日：平成28年11月29日（火）18:00～21:00

会場：日本子宮内膜症啓発会議　会議室

委員：3名

次第：
1. 制作資材（冊子・ポスター）の内容確認、文言確認、修正箇所協議
2. デザイン等の調整

4、調査事業について

I.　調査目的

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、多くの女子生徒が月経関連疾患の症状を有しているにもかかわらず、女子生徒の月経関連疾患についての議論・対応策は報告されておらず、学校現場における中学・高等学校の女子生徒を対象とした女性特有の健康問題により勉学・運動などへの影響や相談・治療といった行動についても十分なエビデンスは得られていなかった。そこで本事業では中学・高等学校の女子生徒へのアンケートを実施し女子生徒が学校生活において女性特有の健康問題による影響の有無、さらに影響がある際の相談相手や治療等の行動についても調査を行った

II.　調査方法

調査方法：　記述式アンケート調査
配布方法：　学校を通じて生徒へ調査票を配布、無記名回答
調査対象：　千葉県下　公立中学校 1 校、公立高等学校 1 校
実施日：　平成 28 年 9 月 2 日～6 日
配布数：　中学校 200 枚、高等学校 522 枚
回収数：　608（84%）
　　中学校　197（99%）　中学 1 年　64　中学 2 年　58　中学 3 年　75
　　高等学校　411（79%）　高校 1 年　158　高校 2 年　144　高校 3 年　109

調査協力：　全国養護教諭連絡協議会
結果集計：　日本子宮内膜症啓発会議事務局
結果解析：　参画委員・第 2 回コンセンサス検討会議

III. 調査内容

平成 28 年度　スポーツ庁委託事業

「子どもの体力向上課題対策プロジェクト」

中学生高校女子生徒の女性特有疾患の現状調査

アンケート調査ご協力のお願い

中学校・高等学校に通う皆さんにとってこの 6 年間はからだと心が急速に成長する時期です。特に女子生徒の皆さんにとって、この時期は生理のトラブルも始まる時期でもあります。

そこで、生理のトラブルが勉強や運動に与えている影響の実態を調べ、それに対する対策を考えるために、中学 1 年生から高校 3 年生までの女子生徒を対象にアンケート調査を行うことになりました。

この調査は名前を記入する必要はなく、誰の答えかわからないようになっていますので、安心してアンケート調査へのご協力をお願いします。

「生理」は、正しくは「月経」と言います。本アンケートでは皆さんがよりわかりやすいと思われる「生理」「生理痛」と統一しています。

お問い合わせ先 ： 日本子宮内膜症啓発会議事務局
〒104-0045　東京都中央区築地 1-4-8　築地ホワイトビル 803
TEL : 03-6228-4804　FAX:03-6228-4364

記入日平成 28 年　9 月　　日

【あなたのことを教えてください】

あてはまるところに記入もしくは番号を〇でかこんでください。

1. 年齢　　歳（さい）　中学・高校　　年　身長　　cm　体重　　kg

2. １年間で一番身長が伸びたのは何歳（さい）の時ですか？そのとき何センチ位伸びましたか？

　　歳（さい）　約　　cm

3. １週間に体育の授業を含めて何日運動しますか？
　① ０日　② １日　③ ２日　④ ３日　⑤ ４日　⑥ ５日　⑦ ６日 ⑧ ７日

4. １日の運動時間は平均何分くらいですか？

　平均　約　　分

5. 現在の運動の状況は？
　① 現役として運動部・スポーツクラブに所属
　② 運動部・スポーツクラブに所属していたが引退した（引退年齢　　歳（さい））
　③ 運動は体育の授業だけ

6. これまで部活動やクラブで行った運動は？(複数可　例　競技:陸上　種目：短距離)

　小学校 競技　　種目　　

　中学校 競技　　種目　　

　高校　競技　　種目　　

7. 競技大会出場経験は？
　中学　　県大会（有・無）　地方大会（有・無）　全国大会（有・無）
　高校　　県大会（有・無）　地方大会（有・無）　全国大会（有・無）
　*地方大会とは関東大会や九州大会などのこと

8. 専門の競技を始めた年齢は？　　歳（さい）

質問は裏にもあります。

あてはまるところに記入するか番号を〇でかこんでください。

1. 初めて生理がきたのは（初経）は、何歳（何年生）ですか？

   ① ＿＿＿＿歳（小・中・高　＿＿年）

   ② まだ生理は一度もきていない　⇒　質問 4 へ進んでください。

2. 最近、生理の長さは何日ぐらいですか？
   ① 3 日以内
   ② 3 日～７日
   ③ 8 日以上

3. 最近、生理はだいたい何日周期ですか？
   （生理の周期とは、生理がきた日を１日目として次の生理がくる前日までの日数です）

   ① ＿＿＿日周期でほぼ規則的

   ② ＿＿＿日から＿＿＿＿日の間で一定ではない

   ③ ３か月以上生理がない

＜3.の記入例＞
① 30 日周期や 28 日周期など生理と生理の間の日数がほぼ同じこと
② 生理と生理の間が毎回違うこと
例えば１８日から４０日など
③ 前の生理が終わってから３か月以上生理がきていないこと

4. 全員にお聞きします。勉強・運動に影響を与える次の症状はありますか。当てはまる番号全部に〇をつけてください。
   ① 生理痛　② 生理不順　③生理の量が多い
   ④ 生理以外の出血　⑤ 生理以外の腹痛
   ⑥ 生理前の症状（気分が落ち込む、イライラ、乳房の痛み、むくみ　など）
   ⑦ 貧血　⑧何もない⇒質問 8 へ進んでください
   ⑨ その他（　　）

5. **質問 4 で**①に〇を付けた人にお聞きします。生理痛の程度はどれくらいですか。
   ① 我慢できる
   ② 薬を飲めば我慢できる
   ③ 勉強・運動(体育の授業)をするのがつらい・集中できない
   ④ 横になって休憩が必要
   ⑤ 1 日以上寝込む
   ⑥ その他（　　）

6. **質問 4 で**⑧以外のどれかに〇を付けた人にお聞きします。それについて誰に相談したり、調べたりしますか？当てはまる番号全部に〇をつけてください。
   ① 誰にも相談しない　理由は？（　　）
   ② 保護者に相談する
   ③ 担任の先生に相談する（男性・女性）　＊どちらかを〇でかこんでください
   ④ 保健室の先生に相談する
   ⑤ 体育の先生に相談する(男性・女性)　＊どちらかを〇でかこんでください
   ⑥ 部活の先生に相談する(男性・女性)　＊どちらかを〇でかこんでください
   ⑦ 先輩や友達に相談する
   ⑧ 図書館で調べる
   ⑨ 保健体育の教科書で調べる
   ⑩ スマートフォンで調べる
   ⑪ パソコンで調べる
   ⑫ その他（　　）

7. **質問 4 で**⑧以外のどれかに〇を付けた人にお聞きします。それについて病院に行って相談・治療しましたか？
   ① 病院には行ったことがない　理由は？（　　）
   ② 産婦人科もしくは婦人科に行った
   ③ 内科に行った
   ④ 小児科に行った
   ⑤ それ以外の病院に行った

8. 全員にお聞きします。今まで骨折をしたことはありますか？
   ① ない　⇒　質問 10 へ進んでください。
   ② わからない　⇒　質問 10 へ進んでください。
   ③ ある　（　　歳ごろ）（何をしている時に　　）

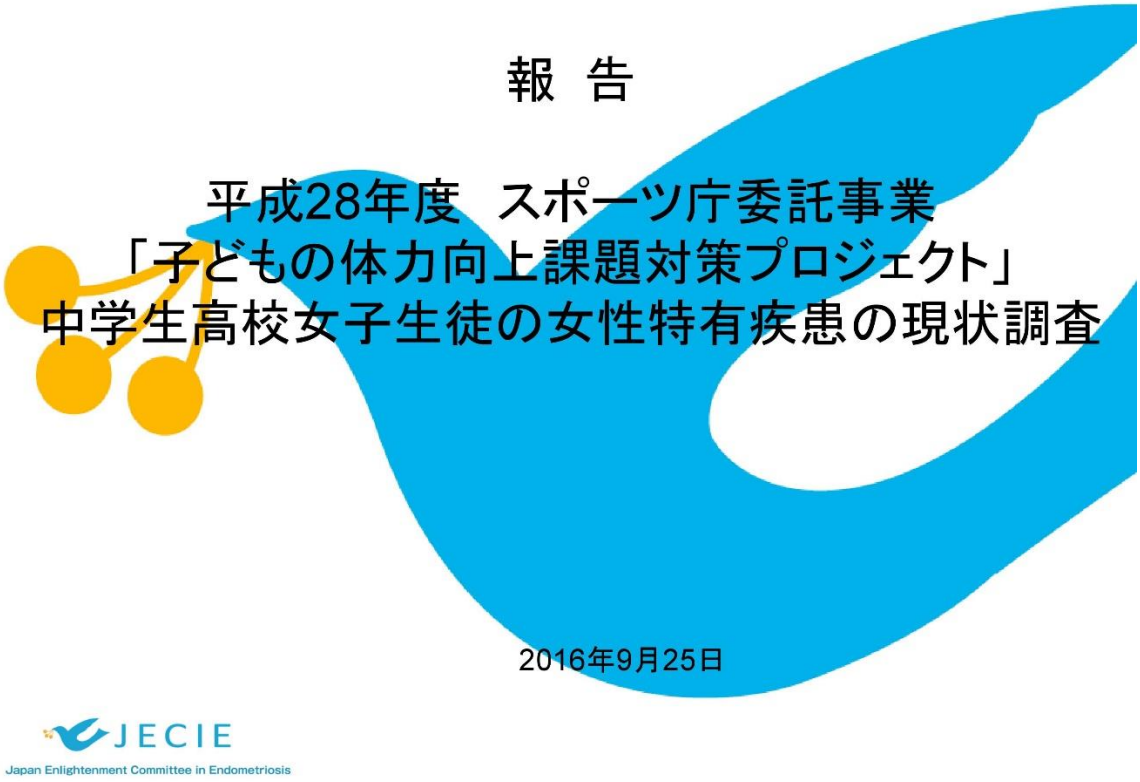
9. **質問 8 で**③に〇を付けた人にお聞きします。その頃の生理の状態はどうでしたか？
   ① 正常な周期（25～38 日）だった
   ② 正常な周期（25～38 日）でなかった
   ③ 3 か月以上生理は止まっていた
   ④ まだ生理はなかった
   ⑤ 覚えていない

10. 全員にお聞きします。今まで健康診断や病院などで貧血と言われたり、治療を受けたりしたことはありますか？
   ① 貧血と言われたことはない
   ② 貧血と言われたが、治療は受けていない
   ③ 貧血と言われ、治療を受けた
   ④ わからない

質問は以上です。ご協力、ありがとうございました。

IV.　調査結果

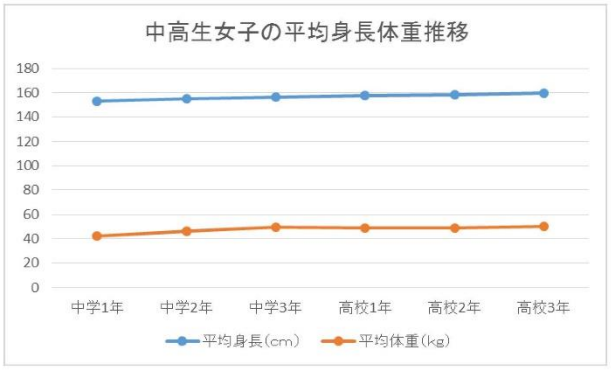
勉学・運動に与える月経関連症状の問（アンケート用紙問４.「勉強・運動に影響を与える次の症状はありますか」）に対し、約 80%の女子生徒が何らかの月経関連症状により勉学・運動に影響があると回答した。また勉学・運動に影響があると回答した女子生徒のうち、誰に相談するかの問（アンケート用紙問６.「誰に相談したり、調べたりしますか」）に対しては多くは保護者を相談相手としている中で、月経関連症状により影響があっても「誰にも相談しない」と 29%が回答した。



アンケート背景

調査対象:　千葉県下　公立中学校1校、公立高等学校1校
実施日:　2016年9月2日～6日
回収数:　608

	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
総回収数(人)	64	58	75	158	144	109
平均身長(cm)	152.7	154.8	156.1	157.8	158.1	159.3
平均体重(kg)	42.4	46.2	49.3	48.7	49.1	50.1

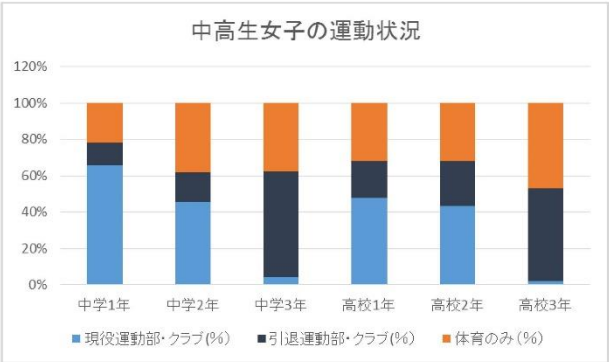


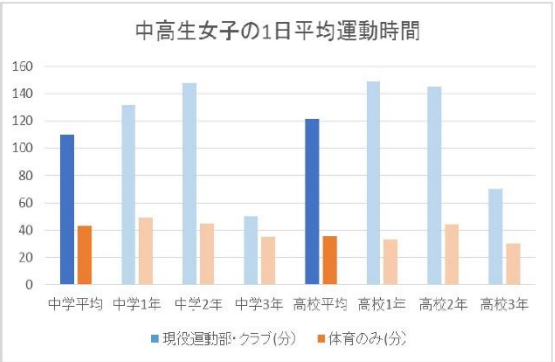
n=582

JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

中高生女子の運動状況背景

	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
日頃の運動状況						
現役運動部・クラブ(人)	42	25	3	75	61	2
引退運動部・クラブ(人)	8	9	43	32	35	53
体育のみ(人)	14	21	28	50	45	49
運動時間						
現役運動部・クラブ(分)	132	148	50	149	145	70
体育のみ(分)	49	45	35	33	44	30





n=595

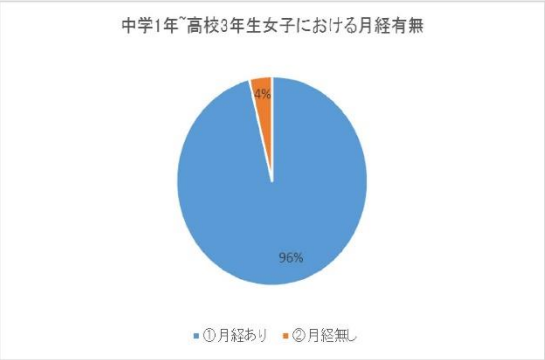
JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

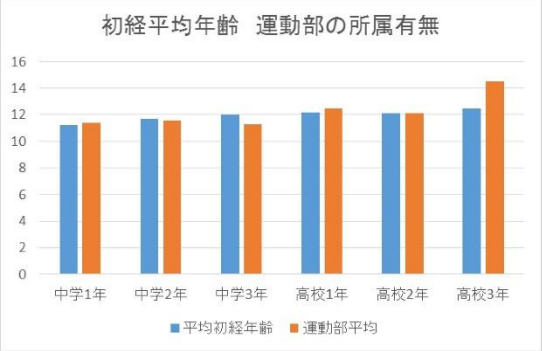
中高生女子の初経有無と時期

1. 初めて生理がきたのは（初経）は、何歳（何年生）ですか？
① 歳（小・中・高 年）
② まだ生理は一度もきていない

	中高生計	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
①月経あり	576	43	53	74	158	143	105
②月経無し	23	18	4	0	0	1	0
現役運動部 初経無		13	1	0	0	1	0

	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
全体初経平	11.2	11.7	12	12.2	12.1	12.5
運動部初経	11.4	11.6	11.3	12.5	12.1	14.5





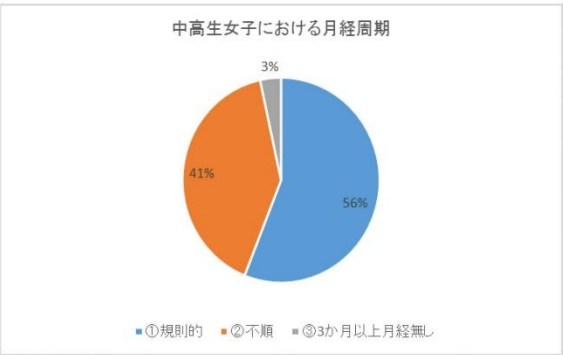
n=599

JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

中高生女子の月経有無と周期

2. 最近、生理はだいたい何日周期ですか？
① 日周期でほぼ規則的
② 日から 日の間で一定ではない
③ 3か月以上生理がない

	中高生計	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
①規則的	311	17	21	37	90	83	63
②不順	225	20	26	32	59	49	39
③3か月以上月経無し	19	3	2	2	5	4	3
現役運動部 3か月無月経		3	2	2	4	3	3



数は少ないが3か月以上無月経の多くが現役運動部

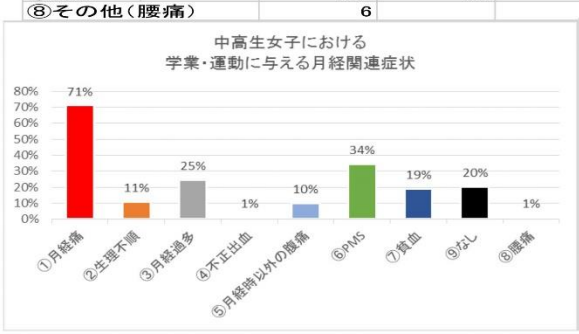
n=555

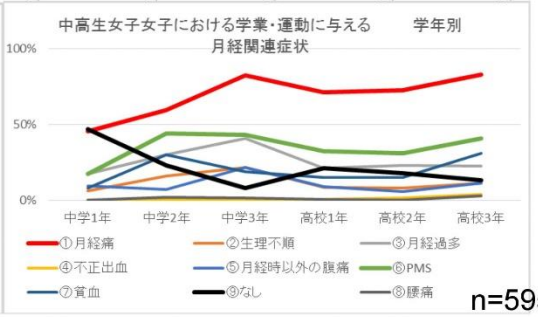
JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

中高生女子の勉強・運動に与える症状

4. 勉強・運動に影響を与える次の症状はありますか。
① 生理痛　② 生理不順　③生理の量が多い　④生理以外の出血　⑤ 生理以外の腹痛
⑥ 生理前の症状（気分が落ち込む、イライラ、乳房の痛み、むくみ　など）
⑦ 貧血　⑧何もない　⑨ その他

	中高生計	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
①月経痛	423	29	34	61	110	101	88
②生理不順	65	4	9	16	13	11	12
③月経過多	147	11	17	30	33	32	24
④不正出血	7				1	2	4
⑤月経時以外の腹痛	60	6	4	16	14	8	12
⑥PMS	204	11	25	32	50	43	43
⑦貧血	113	5	17	14	23	21	33
⑨なし	121	30	13	6	33	25	14
⑧その他（腰痛）	6		1	1	1	0	3





n=595

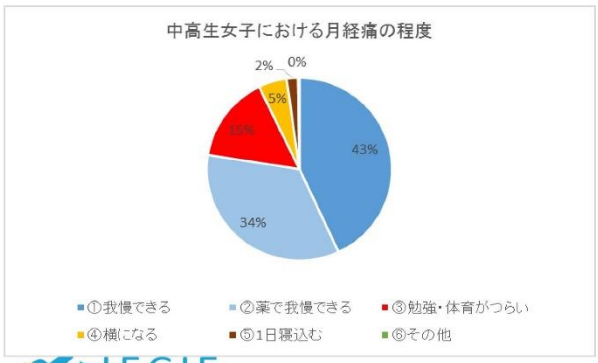
JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

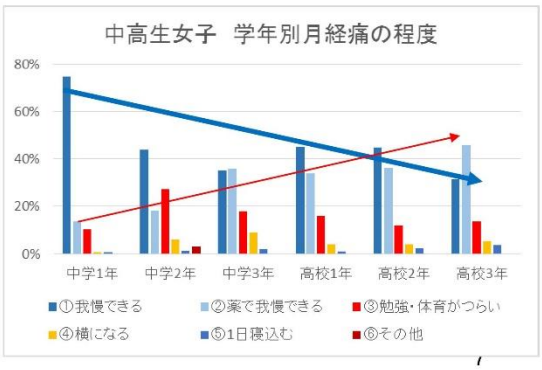
6

中高生女子の月経痛の程度

5. 質問4で①に〇を付けた人にお聞きします。生理痛の程度はどれくらいですか。
① 我慢できる ② 薬を飲めば我慢できる
③ 勉強・運動(体育の授業)をするのがつらい・集中できない
④ 横になって休憩が必要　⑤ 1日以上寝込む ⑥ その他

	中高生計	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
①我慢できる	181	23	15	22	49	45	27
②薬で我慢できる	144	4	6	22	37	36	39
③勉強・体育がつらい	64	3	9	11	17	12	12
④横になる	21	0	2	6	4	4	5
⑤1日寝込む	8	0	1	1	1	3	3
⑥その他	1	0	1	0	0	0	0





JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

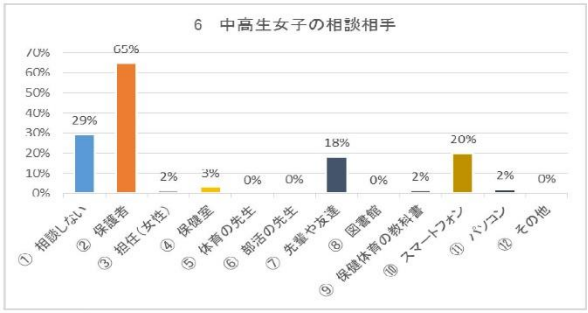
7

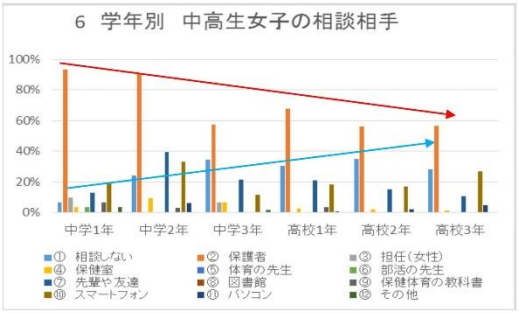
n=419

中高生女子の月経関連疾患の相談相手

6. 誰に相談したり、調べたりしますか？
① 誰にも相談しない ② 保護者に相談する ③ 担任の先生に相談する(男性・女性)
④ 保健室の先生に相談する ⑤ 体育の先生に相談する(男性・女性)
⑥ 部活の先生に相談する(男性・女性) ⑦ 先輩や友達に相談する ⑧ 図書館で調べる
⑨ 保健体育の教科書で調べる ⑩ スマートフォンで調べる ⑪パソコンで調べる ⑫その他

	中高生計	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
① 相談しない	123	2	8	21	33	35	24
② 保護者	272	29	30	35	74	56	48
③ 担任（女性）	7	3	0	4	0	0	0
④ 保健室	14	1	3	4	3	2	1
⑤ 体育の先生	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 部活の先生	1	1	0	0	0	0	0
⑦ 先輩や友達	77	4	13	13	23	15	9
⑧ 図書館	0	0	0	0	0	0	0
⑨ 保健体育の教科	7	2	1	0	4	0	0
⑩ スマートフォン	84	6	11	7	20	17	23
⑪ パソコン	9	0	2	0	1	2	4
⑫ その他	2	1		1			





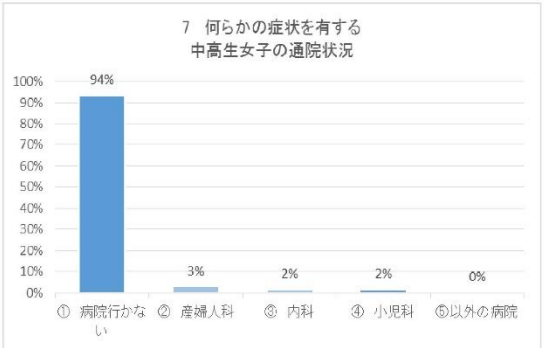
JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

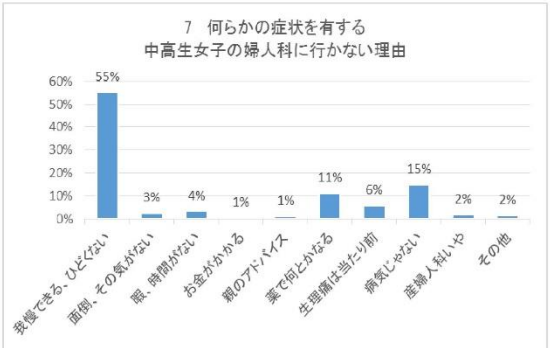
8
n=419

中高生女子の月経関連疾患の通院有無

7. 症状について病院に行って相談・治療しましたか？
① 病院には行ったことがない 理由は？ ② 産婦人科もしくは婦人科に行った
③ 内科に行った ④ 小児科に行った ⑤ それ以外の病院に行った

	中高生計	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
① 病院行かない	407	25	38	56	111	95	82
② 産婦人科	13	2	1	1	3	3	3
③ 内科	7	2	1		3	1	
④ 小児科	7	2	1	1	1	2	
⑤上記以外の病院	1		1				





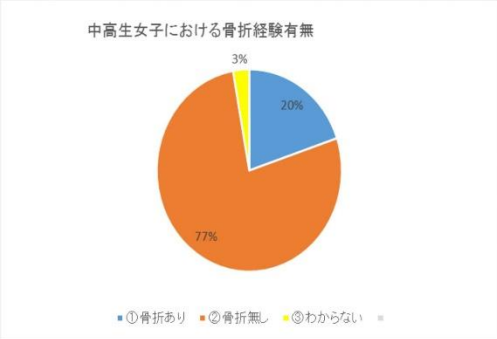
JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

9
n=435

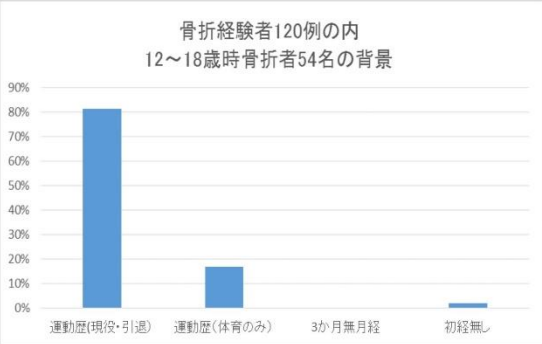
中高生女子の骨折と月経

8. 今まで骨折をしたことはありますか？
① ない ② わからない ③ ある（ 歳ごろ）

	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年	中高生計
①骨折あり	9	7	14	30	34	26	120
②骨折なし	54	48	54	124	107	81	468
③わからない	1	2	7	3	2	2	17



n=605



n=54

参考：運動背景から見た骨折割合

	12～18歳骨折	骨折総数	12～18歳骨折数
運動部(n=373)	12%	89	44
体育のみ(n=202)	4%	27	9

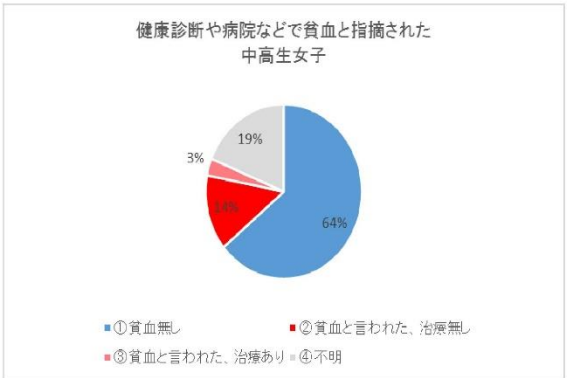
10

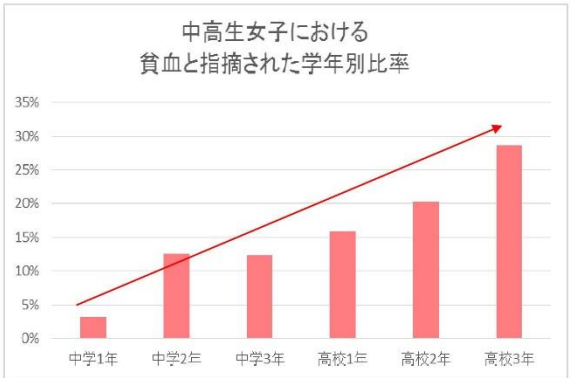
JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

中高生女子の貧血動向

10. 今まで健康診断や病院などで貧血と言われたり、治療を受けたりしたことはありますか？
① 貧血と言われたことはない ② 貧血と言われたが、治療は受けていない
③ 貧血と言われ、治療を受けた ④ わからない

	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
①貧血無し	49	39	48	106	85	57
②貧血あり、治療無し	2	4	3	22	26	27
③貧血あり、治療あり	0	3	6	3	3	4
④不明	12	10	16	26	29	20





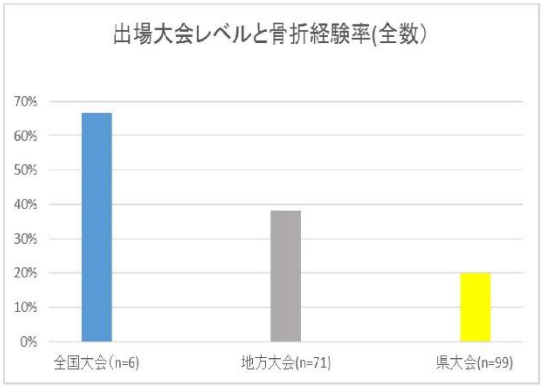
n=600

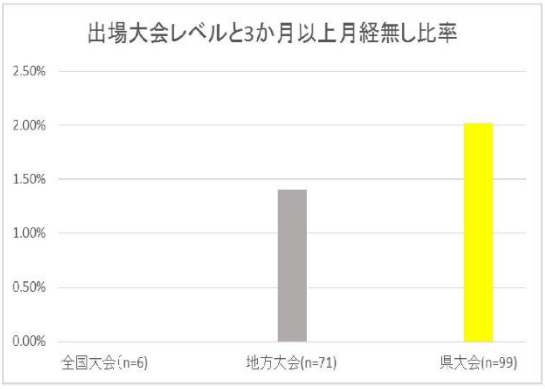
11

JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

中高生女子　大会レベルによる検討

骨折	全国大会	n=6	0	0	0	3	3	1
		67%	0	0	0	2	2	0
	地方大会	n=71	2	7	8	23	16	15
		38%	1	2	3	10	5	6
	県大会	n=99	3	4	14	26	30	22
		20%	0	1	3	5	3	8
無月経(続発性)								
	全国大会	n=6	0	0	0	3	3	1
		0.00%	0	0	0	0	0	0
	地方大会	n=71	1	6	8	20	15	15
		1.41%	0	0	0	1	0	0
	県大会	n=99	2	4	14	26	29	21
		2.02%	0	0	0	1	0	1





JECIE
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

12

5、制作資材について

I.　資材内容

（1） 教員対象資材

① 啓発冊子:A5 版　8 ページ　オールカラー冊子
サンプルを全国の中学校・高等学校等約 19,263 校へ 3 月末に一斉発送
本会ホームページにデータ掲載（ダウンロード可能）
http://www.jecie.jp/jecie/jsa2016/

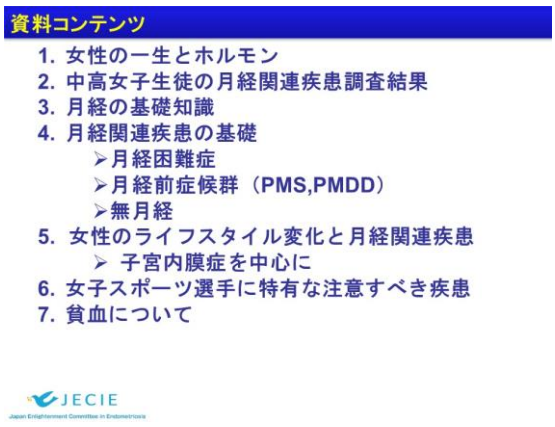
② 自主研修用スライド：パワーポイント・PDF
本会ホームページにデータ掲載（ダウンロード可能）
http://www.jecie.jp/jecie/jsa2016/

（2） 生徒対象対象資材

① 啓発ポスター：A4 版・A3 版
サンプルを全国の中学校・高等学校等約 19,263 校へ 3 月末に一斉発送
本会ホームページにデータ掲載（ダウンロード可能）
http://www.jecie.jp/jecie/jsa2016/

編集責任者：百枝　幹雄
編集協力：全国養護教諭連絡協議会、日本高等学校体育連盟

監修：日本学校保健会、日本体育協会、日本中学校体育連盟、日本高等学校体育連盟、
全国養護教諭連絡協議会、日本医師会、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、
日本思春期学会、国立スポーツ科学センター



6、まとめ・今後の課題

学校における月経関連疾患に関する教育については、学習指導要領に基づき実施される授業内においては全国画一的に実行する事は困難であると考えられているが、教育基本法第2条において「幅広い知識と教養を身に付け、心理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」とあるように知識・技能の習得と併せ体育などの充実により健やかな身体を育成することは重要である。特に高等学校学習指導要領（性に関する箇所）には「生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていること」とある。しかしながら、本事業で実施した中学・高等学校女子生徒を対象としたアンケート調査により、約80%の女子生徒が月経関連症状により勉学・運動に影響があることがわかり、さらに影響があっても、保護者や教員など周りの大人に相談せずにいる女子生徒が29%いることもわかった。相談しない理由としては「人に相談するような事ではない」、「痛い事は当たり前だから」、「親に大丈夫だと言われた」といった回答があり、本人や相談相手の理解不足といった側面もあるのではないかと考えられる。

保健体育・性教育といった場面での月経教育も重要ではあるが、女子生徒にまず月経に係る悩みがあれば相談しても良いという事を啓発する必要がある。また、先の調査でもわかる通り悩みを抱えていても誰にも相談せずひとりで我慢している女子生徒もいる可能性がある。女子生徒からの相談を待つだけではなく、学校生活の場において女子生徒の様子や変化が見えやすい教員にも理解を深めていただき、体調の悪そうな女子生徒を見かけたら、「単なる生理痛」「よくあること」で済ませず、養護教諭と連携をとり、気配りのある声かけを行うなどし、生徒が相談しやすい環境づくりをしてもらえるよう願っている。その際に参考となるよう、教員対象資材では思春期女子特有の月経関連疾患について主なサインや原因と疑われる疾患が確認しやすいものにした。更に教員自主学習用スライドでは月経の基礎や月経関連疾患の基礎に加えて女子スポーツ選手特有の問題や貧血などのテーマもコンテンツに入れ、より学校生活の中で想定される状況で役立ててもらえるような内容となっている。

また本年度の調査により、保護者への相談が大半を占める中、「不調を感じても病院に行かない」と回答した生徒が94%にも及んでいることから、相談をしても必ずしも適切な行動に至っていないこともわかった。今後は保護者にも正しい知識と理解を深めてもらえるような活動も検討し、女子生徒の将来にも影響する健康管理のために教員・養護教諭・保護者の理解と連携協力をとっていただくことが不可欠である。また本年度作成した資材により、学校現場での教員の対応や生徒の相談行動に係る効果計測も継続して行い、より効果的な啓発方法の検討と行動変化の調査は今後も更に取り組む必要がある。

子供の体力向上課題解決に向け、女子生徒の積極的な授業・運動への参加や自己の健康管理及び環境づくりを目指し学校現場・家庭との連携を課題として施策の推進が急がれる。

平成 28 年度スポーツ庁委託事業「子供の体力向上課題対策プロジェクト」

中学校、高等学校における教員を対象とした
女性特有の健康問題に関する情報周知
成果報告書

発行　：特定非営利活動法人　日本子宮内膜症啓発会議
〒104-0045
東京都中央区築地 1－4－8 築地ホワイトビル 803
TEL　03-6228-4804　FAX 03-6228-4364
URL　http://www.jecie.jp

本書の無断複写複製（コピー）及び内容の無断転載を禁じます。